

# 子どもたちと社会との距離を縮める新聞 — 信州の初期社会科における新聞教育から学ぶこと —

長野県新聞活用教育(N I E)推進協議会長

信州大学学術研究院教育学系准教授

篠崎 正典

『新聞とラジオ』という一冊の社会科教科書(学習帳)がある。中には、「一 学校新聞と校内放送」「二 新聞はどんなはたらきをしているか」「三 新聞はどのようにしてつくられ私たちのもとにとどけられるか」「四 ラジオはどのように放送されているか」「五 新聞やラジオはどのように発達したか」「六 新聞やラジオは我々の生活にどんなえいきょうをあたえているか」「七 学校新聞や校内放送の改善」からなる学習が書かれている。これは、新聞やラジオの通信報道の発達によって「自分の生活と世界中の出来事が切りはなせない関係をもつようになってきた」意味を考え、自分たちにとって身近な学校新聞と校内放送をより良いものに改善するために行動できる子どもたちを育てることをねらいとしているからである。

『新聞とラジオ』は、1950(昭和25)年7月に信濃教育会が小学校6学年の社会科の単元である「新聞とラジオ」の学習指導のために発行したものである。日本の民主化を目指して行われた終戦直後の教育改革の目玉として誕生した社会科には、自分たちが住む社会を理解し、その進展のために行動できる子どもたちを育てることに使命があった。『新聞とラジオ』は、子どもたちが生きる社会を映し出す新聞の役割と意義に着目することで、社会科の使命を果たそうとしているのである。

今日、「社会に開かれた教育課程」に代表されるように、社会に参画する子どもたちを育てることが目指される中、教師に求められることは、子どもたちと社会との距離を縮める支援をいかにできるかということではないだろうか。『新聞とラジオ』が教えてくれるように、ここで新聞が果たす役割が大きい。本実践報告書に掲載された研究指定校の実践は、まさに、新聞を通して子どもたちと社会との距離を縮める機会が生まれた貴重な取り組みではないだろうか。今後益々、学校教育で新聞が活用されることで、社会を身近に感じ、将来社会に働きかけることができる子どもたちが育つことを望みたい。

2025年度より松本康先生(信州大学名誉教授)から会長職を引き継がせていただきました。貴重な機会をいただきありがとうございます。長野県NIE推進協議会、研究指定校をはじめとする長野県内の先生方が取り組まれた貴重な実践から学ばせていただきながら、微力ではございますが、信州の子どもたちのために少しでも貢献できたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。